

令和3年度 桃陵中学校の教育

＜校区の概要＞

南浜地域は、江戸時代から明治にかけて港町として大変栄えた、歴史のある地域である。校区には今もその名残がある史跡等が多く存在している。また、酒造業も有名で多くの酒蔵もある。近年、大小様々なマンションが建ち町並みの変化も見られるが、観光ブームもあり全国から大勢の観光客が訪れる。そういった歴史や伝統・文化を地域の人々は大切にし、誇りを持って、次世代の地域の子どもたちに受け継いでくれることを強く期待している。地域では桃陵校区を「南浜」といい、5校園（桃陵保育園・伏見幼児園・伏見南浜幼稚園・伏見南浜小学校・桃陵中学校）を含め、29団体が「南浜会」を組織し、強い結束力のもと、地域行事を行っている。桃陵中学校も固有の学校経営を行うと同時に、地域の一団体として南浜地域の活動に協力することが責務となっている。また、南浜地域には「子どもは地域の宝」「地域の子どもは地域で守る」を合い言葉に安心・安全の街づくりすすめる気風が満ち溢れている。

本校は、昭和24年伏見区の一歩南に位置する中学校として創立した。その後、伏見区の人口増加と共に、小中学校区の編成が繰り返し行われ、本校から5中学校（向島中・向島東中・大淀中・神川中・洛水中）が独立し、平成2年から、伏見南浜小学校と一小一中の中学校となった。

＜生徒の実態と課題＞

生徒は素直で人なつっこく、優しい子どもが多い。学習にもまじめに取り組み、一定の学力を身に付けている。しかし、他の地域からの刺激が少なく、たくましさに欠ける面が見られる。また、自ら課題を見つけ、考え、主体的に課題を解決したり、行動したりする面に弱さがある。また、教職員との距離感がわからず、正しい言葉づかいができない生徒が多い。将来の展望をもって自らの生き方を考え、目標を設定し、その実現に向けて努力する態度や意欲に欠ける面がある。

学校・地域を大切に、地域行事にも積極的に参加し、ボランティア精神も身につつつあるが、自己肯定感が低く、一人ひとりの生徒が持っている感性を磨き、良さや可能性を発揮させ、心身ともにたくましく思いやりのある、自ら問題解決に向け、将来の展望をもって行動できる生徒を育成することが課題である。

＜学校教育目標＞

『自ら学ぶ 豊かな心をもつ 社会に貢献する 生徒を育む』

＊自ら学ぶ生徒を育てます。

生徒一人ひとりを徹底的に大切にする教育のもとに、個に応じた指導を行い、生徒一人ひとりが生きる力を育み、自ら問題を解決する力を培うことができるように支援します。

＊豊かな心をもつ生徒を育てます。

一人ひとりの生徒の可能性を最大限に開花させ、心身ともにたくましく、大切な自分を確認しつつ、お互いに支え・励まし・高め合う気持ちがもてるよう支援します。

＊社会に貢献する生徒を育てます。

社会に対する責任を、人として自覚し、地域をはじめ、社会に主体的に寄与する力をつけ、自らの生き方を考えられるよう支援していきます。

<目指す生徒像>

「夢や希望をもって、よりよい生き方を考え、自分の考えや思いを伝え合える生徒」

- 自他を認め合い、豊かな心をもつ生徒（自尊感情）
- 目標を定め、主体的に学ぶ意欲をもった生徒（学力向上）
- 正しく判断し、行動できる生徒（規範意識）
- 集団の中で、自分の考えや思いを伝え合える生徒（協働活動）

生徒の行動規範

『支え・励まし・高め合う 桃陵中学生』

<目指す教職員像>

「自らの職務に『使命感』と『情熱』をもってあたり、桃陵中学校の教職員として誇りをもって教育実践を行う教職員」

- 高い人権意識と倫理観をもち、常に生徒・保護者の心情に寄り沿うことのできる教職員。
- 常に自己の資質や能力を高め、不断の研鑽を積み研修する教職員。
- 教職員相互が認め合い、理解し合い、時には厳しく相互批判することのできる教職員。
- 「教職員チーム」としての総合力を高め、一人一人の持ち味を活かす教職員。

<目指す学校像>

「生徒・教職員が自信と誇りを持ち、信頼され行動する学校」

- 生徒にとって、明るく楽しい、学ぶ喜びを感じる学校。
- 教職員にとって、働きがいのある学校。
- 保護者や地域にとって、安心・信頼・満足を実現する学校。
- 一人ひとりが大切にされ、共に生きることの大切さを学ぶ学校。
- 環境にやさしく、学校予算の有効的な活用ができるかしこい学校。

<学校経営方針>

- 教育目標の実現に向けて、教職員が使命感と情熱を持ち、叡智を結集して、協働態勢をもとに行動する学校づくりを進める。
- 生徒が自らの生き方を考え、目的意識を持って自己目標を設定し、その実現に向けて努力する態度や意欲を育む取組を通して、生徒が「自信と誇り」をもてる学校づくりを進める。
- 学校・園など異校種間並びに地域社会との相互連携を推し進め、地域コミュニティを大切にしたい信頼される学校づくりを進める。
- 学校予算の効果的な活用や施設の有効活用、環境にやさしい学校づくりに努める。

<今年度の重点目標>

上記学校経営方針達成のため以下のことを重点項目とする。

- 深い学びを創出する言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を育成する。（読解力の育成）
- 内面への働きかけを通して、しなやかで豊かな心を育成する。（道徳教育・人権教育の充実）
- 職場体験等、様々な体験活動を通して、社会で自立するために必要な能力や意欲、態度を育成する。（キャリア教育の推進）
- 学校教育活動の情報発信を通して、保護者・地域との連携を推進する。（学校運営協議会やPTAとの連携）

＜具体的な取組＞

1. 自ら学ぶために

- 生徒にとってわかる喜びと学ぶ楽しさを実感できる授業の確立と教材研究による授業改善を推進する。（「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善）
- 指導と評価の一体化を目指し、学習評価の妥当性と信頼性を高める。
- 全国学力調査や学習確認プログラムから学力実態を把握し、課題を明確にして計画的な学習を進める。
- 家庭学習の定着を図ると共に、個々にあった学習課題の設定に努める。
- 個別の指導計画を活用しLD等支援の必要な生徒の学力を向上させる。

2. 豊かな心をもつために

- すべての教科・領域において、しなやかで豊かな感情を養う指導を行い、より良い人間関係を築く自主的・実践的な態度を育成する。（正しい言葉遣い・挨拶・感謝の気持ち）
- 道徳の時間を中心としたしなやかな道徳教育の実践を推進し、他人を思いやる心や優しさ、相手の立場になって考え共感できる心を育成する。
- 生徒一人一人を大切にした信頼関係構築のための心の通った指導・見逃しのない観察・先を見越した対策を推進する。
- 自尊心を高め、一人一人生徒自らの力が発揮できる、集団づくり、学級経営を推進する。
- すべての教育活動で障害についての理解と認識を深め、互いに尊重し、共に成長し合う教育を推進する。

3. 社会に貢献できる生徒を育むために

- 望ましい生活習慣の形成と健康や体力の保持に努める。
- 自立して社会の発展に主体的に寄与する力の育成に努める。
- 自らの生き方を考える力を養うとともに、進路保障に努める。
- 積極的に地域の活動に参加できる生徒の育成と土壌づくりに努める。